

【 2023 年度 聖隷こども園・保育園 施設関係者評価 】

目的：浜松磐田地区の聖隷こども園・保育園が、お互いに客観的な視点で施設評価を行うことで、保育の資質向上を目指す。

【保育・教育理念】

聖隷の保育・教育理念が、日常の保育・教育に反映されているか。

- ・愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
- ・一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。
- ・自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
- ・在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

子どもたち一人一人の思いを受け止めながら保育にあたっている。異年齢で関われる環境や、ブラジル国籍の子どもの受け入れを行う等、違いを認め合える環境であり、子ども一人一人に寄り添いながら愛のある保育を行うよう努めている。どのクラスでも子どもたちが生き生きと生活しており、保育・教育理念が日ごろから保育に反映されていることがうかがえた。

【人権尊重】

常に子どもの立場に立って、子どもの成長に最善となるような取り組み（関り・配慮）がなされているか。

国籍や発達の違いを受け止め、一人一人に合わせた関りや対応を心掛けていることが感じられた。“子どもたちにとって大切なこと”を最優先に、活動や環境を考え保育が行われている。

【情報保護】

個人情報の保護は適切であるか。

適切に管理されている。
個人情報は、施錠でき、セキュリティがある場所（部屋）にて保管されている。

【苦情対応】

意見や苦情に対して、適切な対応ができているか。

いただいたご意見や苦情に対して、園長や主任を中心に真摯に対応している。
必要な情報を職員間で共有し、改善に努めている。

【保健・衛生】

園児の感染症等の情報提供、日常の健康観察や感染症の拡大防止等の取り組みがなされているか。

看護師が配置されており、日々の健康管理や感染症の対策等を保育者と共に相談しながら適切に行っている。必要な情報を速やかに保護者の方に共有している。

【安全】

救急・防犯・避難訓練等を通して、職員・園児の安全対応能力の向上を図るための取り組みがなされているか。

毎月の避難訓練や、職員の勉強会にて、安全管理の教育を職員・子どもたちへ行っている。園内の危険について、速やかに周知し、職員間で検討する等、改善や対策を適切に行っている。

【運営】

施設・設備の環境や管理等、運営は適切になされているか。

適切に行なわれている。
修理が必要な個所や、危険個所については速やかに修繕を行う等の対応がとられている。また、必要な点検も適宜行われている。

【環境美化】

園内外の清掃、物の整理整頓等、清潔で整然とした環境になっているか。また、季節感等が感じられる工夫がなされているか。

花や生き物がきれいに管理され、心地よい過ごしやすい環境である。
園内外の清掃も行き届いており、棚の上も季節の花や小物等で飾られていて、季節感が感じられた。

【保育室】

室内の環境が子どもの発達に合わせて工夫され、玩具等適切に配置されているか。

玩具は子どもたちが自分で選んで遊べるよう、手が届く場所に配置されている。また、乳児保育室では、布製や木製の玩具を中心に、年齢発達に合わせた玩具が用意されており、あたたかい雰囲気を感じた。じゅうたんや棚等で空間が区切られて、個々が落ち着いて遊べるような空間を意識して配置していることを感じた。

【保育内容】

全体的な計画に基づき、「歳児別保育目標」を意識した保育が展開されているか。

0 歳児

- ・ 神さまから預かったいのちとして大切にされる
- ・ 大人の愛情に包まれ、安心して過ごす
- ・ 意思がしっかり受け止められ、安心して自分らしさを出す

1 歳児

- ・ 保育者の祈りや讃美することを通して、神さまに会う
- ・ 歩行と共に行動範囲をひろげ、興味・関心をひろげる
- ・ 神さまや周りの人たちに守られ、愛されていることを感じる
- ・ 全身を使ってあそび、言葉や身振りで自分の思いを表す

2 歳児

- ・ 神さまや周りの人たちに守られ、愛されていることを感じる
- ・ さまざまなことに興味・関心を持ち、保育者や友だちの中であそびを楽しむ。また、生活面の自立ができるようになる。

3 歳児

- ・ 保育者や友だちと一緒に讃美歌を歌うことやお祈りをすることを喜ぶ
- ・ あそびを通してイメージを広げ、社会や自然を理解し、友だちとあそぶことの楽しさやル

ールの大切さを味わう

4 歳児

- ・保育者や友だちと礼拝を守りながら日々を歩む
- ・あそびを通して基本的な自然や物事の特徴を知り、友だちとのかかわりを通して葛藤を乗り越え、集団生活を豊かにする

5 歳児

- ・一人ひとりが神さまから違った良いものをいただいていることを認め合って過ごす
- ・共同的な活動を通して、子どもたちが自分の役割を知り、互いに認め合いながら、主体的に行事やクラスの運営を行う

どの年齢も、子どもたち自身が遊びを選んで興味あるものや、やりたいものに手を伸ばせる環境であり、職員も個々の思いをくみ取りながら保育にあたっていることが感じられた。

乳児クラスでは、保育者の見守りや丁寧な関りの中で遊ぶ子どもたちの姿に、保育者との信頼感関係や愛情で満たされていることを感じ、安心の中で自分らしさを発揮できる環境であることを感じた。

幼児クラスでは、異年齢での活動の中で小さい子が大きい子の遊びに加わることで自然とルールを覚えたり、遊び方（戦略）を学んだりする姿が印象的であった。大人が教えるのではなく、友達とのかかわりの中で集団生活のルールが自然と身に付き、自ら学んでいくことができる保育であると感じる。また、集団の中でも個々に目を配り、丁寧な対応も必要であることを保育者が意識して保育にあたっていた。

【全体を通して】

園全体からあたたかな雰囲気を感じられた。花や生き物が玄関や廊下、各クラスでしっかりと管理されており、子どもたちにとってとても良い、豊かな環境であると感じる。子どもたち一人一人が生き生きとしていて、子どもたちの元気な声がよく聞かれた。保育者も子どもたちと一緒に遊びこんでおり、子どもたちとの信頼関係がしっかりと築かれていると感じ、安心の中で好きな遊びに取り組める環境であることを感じた。

評価日	2023 年	1 月	17 日
評価者	園 名	聖隷こども園こうのとり富丘	
	役 職	園 長	
	氏 名	二村 郁枝	